平成 23 年 1 月 1 日現在

臼杵城跡周辺地区

（大分県臼杵市）

- ○ 計　画　期　間　　平成 16 年度～20 年度
- ○ 面　　積　　29.3ha
- ○ 交付対象事業費　　958 百万円
- ○ 市人口　43,303 人（地区内人口 1,634 人）

ポイント　「臼杵城の再生」により臼杵の歴史・文化を全面にアピールし、まちの賑わいを取り戻し、中心市街地の活性化を目指す。

地区概要　臼杵城の再生を柱に街路、公園、ポケットパーク、サイン事業等を整備し、観光スポットのネットワーク化を図り、また市民の景観形成に対する意識の高揚を図る。

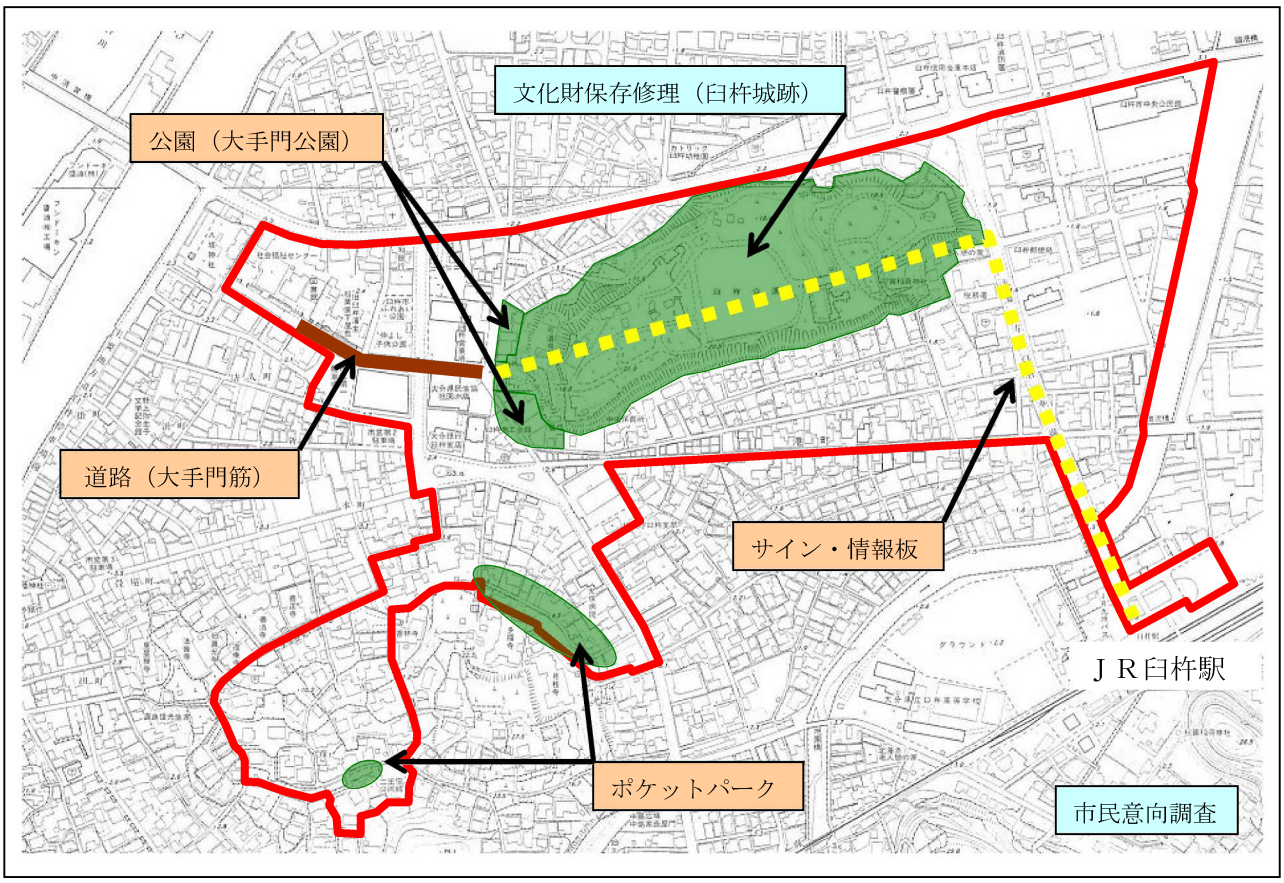
目　　標　臼杵の歴史特性を活かした景観整備により、中心市街地を「人・モノが活発に交流する賑わいの町へと」を復活させる。

指　　標　臼杵城と城下町地区内の連携の強化を図るなど歴史的景観整備によりまちの賑わいを復活させることを目指し、観光客数、建物の修景件数、まちなみの一体化度、商店街の満足度の増を目標とした。

観光客数	190,000 人（H15）	→	210,000 人（H20）
修景件数	120 件	→	190 件
一体化度	50%	→	70%
満足度	16.6%	→	25%

事業内容　基幹事業（743 百万円）→・道路電線類地中化、道路美装化（延長 186m、幅員 14m）・公園（１箇所、面積 3,000m2）・ポケットパーク（２箇所、面積 980m2）・サイン、情報板（23 箇所）

提案事業（215 百万円）→・文化財保存修理（全体面積 59,159m2、発掘調査、櫓の修復、石垣の修復、園路整備）・市民意向調査



地区の現況と課題

戦国時代末期、大友氏城下町を母体とし、現在もほとんど当時のままの姿を残す町割りや道路を持つこの地区は、これまでも街路や建家の修景を行いながらまちなみの一体化を図り整備を進めてきた。しかしながら著しく近代化が進んだ地域、まちなみの核となる「臼杵城跡」をはじめ数多くある散策スポットにおいてはまだまだ連続性や快適性に欠ける部分が多く、中心市街地が活気に満ちあふれていない状況にある。

基幹事業の特徴

道路（大手門筋街路整備事業）

特殊街路の電線類地中化、歩道の整備・石畳舗装等を行い、まちなみの連携を図る。

公園（大手門公園整備事業）

まちなみのシンボルである「臼杵城跡」に隣接する空地を公有化し、景観確保を行うとともに憩いの場として整備を進める。

地域生活基盤施設（ポケットパーク整備事業）

散策街路の空地を利用してポケットパーク（トイレ、休憩舎等）を整備し、活用性の向上を図る。

高質空間形成施設（臼杵城周辺サイン整備事業）

鉄道からの玄関口である「ＪＲ臼杵駅」から「臼杵城跡」までの道程において順路サイン、情報板等を設置し、散策ルートの拡大を目指す。

提案事業の特徴

地域創造支援事業（臼杵城再生整備事業）

臼杵城下町のシンボルである「臼杵城跡」を旧城道を活かした順路整備、既存遺構の保存と復元を図りつつ、安全で市民の憩いの場にふさわしい史跡公園とする。

事業活用調査（市民意向調査）

交付金事業の目標値の達成状況をチェックし、事業の成果を評価する。

計画策定プロセス

まちづくり交付金検討会

「臼杵のまちんなか活性化基本計画」（臼杵市中心市街地活性化基本計画）を軸として、庁内会議を重ね、都市再生整備計画に反映した。

市民プロジェクト（まちづくり市民塾）での検討

事業実施期間において、「臼杵市まちづくり基本計画」策定委員会の市民部会である「まちづくり市民塾」において交付金事業の紹介・説明を行うと、これからのまちづくりについて熱心な議論が交わされた。結果、まちなかの土地利用、景観保全の重要性が提言され、まちづくり事業の継続性、実現性が確保された。

整備事例の紹介

▼大手門筋の整備

石畳歩道の整備

電線類の地中化

▲大手門公園の整備

▼ポケットパークの整備

▼サイン整備

▼臼杵城再生整備

卯寅口門脇櫓の修復

天守台跡広場

搦め手口園路（左）

鐙坂園路（下）